

プロファイルの概念

ICCプロファイルについての専門書は、色彩の知識からはじめて、どんな場合でも通用するようにいろんなことが説明してあるので、わかり難いです。
自社所有の設備ではどうなるかを表にまとめましたので参考にして下さい。

- 補足説明
- ・ プロファイルはレンズの前につけるフィルターのようなものと考えれば理解しやすい。付けたり抜いたり自由ができる
 - ・ 埋め込みという表現は、コーヒーにミルクを混ぜるようにデータと一体化してしまうように感じるがそうではなく、"埋め込む"ではなく"はめ込ん"でいる。
 - ・ 「～に変換」というダイアログが出た時は、YMCKの網％が変わるので注意が必要
 - ・ フォトショップではデザイナーが作成した色ができれば良いので網％にこだわらないことが多いので、変換してもよい
 - ・ イラストレーターではデザイナーは、網％にもこだわる部分もあり変換はかけるべきではない。(変換をかけたデータも作成しておくで網％の参考になる)

フォトショップ、イラレデータを開いた時出るダイアログはどれを選べばいいのか？ (出力装置を仮にアップルーバルにしています)

1 プロファイルが埋め込まれているデータの場合

		概念	デザイナーとの互換性			内部の作業性			
			モニターの色	網%	校正				
ダイアログ	どのプロファイルが使われるか	ど っ ち の フィルターで 見 て い る か？	こちらのモニターに出た色がデザイナーのモニターと	網%はデザイナーが指定したものと	デザイナーが出したプリントの色とアップルーバルで出した色が	モニターの色とアップルーバルで出した色が	仕事で使うのに適しているか	この選択枝はどのソフトで使うか？	どう いう 時 にこの選択枝を使うか
作業スペースの代わりに埋め込みプロファイルを使用	デザイナーが選んだプロファイル	むこう	同じ	同じ	違う	違う	×	これを選んだら加工してはいけない	デザイナーのモニターで見た色をこっちで見たい時に使う これで仕事をしようとしても、モニターの色とアップルーバルの色がちがうので、作業しにくい
ドキュメントのカラーを作業スペースに変換	アップルーバル	こっち	ほとんど同じ	違う	ほとんど同じ	同じ	○	Photoshop	自動でデザイナーの色にもっていく場合 デザイナーが、頭に描いている色を印刷で再現したい場合。但し、網%が変わる フォトショップではこれを選択（色が合えばいいので） イラレではこれを選択してはいけない（アミ%の数字重視するため）
埋め込まれたプロファイルを破棄（カラーマネジメントしない）	アップルーバル	こっち	違う	同じ	違う	同じ※1	△	Illustrator	デザイナーが指定した網%を重視する場合 モニターの色は、アップルーバルと同じだが、デザイナーが頭に描いている色とは違う 同じにしたかったらデザイナーのプリントを見ながら手動で網%を変える

※1 プロファイルの破棄は破棄では無く、とりあえずこちらの初期設定のプロファイルを使用するということ

1、破棄はphotoshopやイラレの初期設定に依存するので。その場しのぎでプリントしている状態です

2、破棄しても、社内で初期設定が同一であれば社内では同じ作業が可能

3、破棄して、外部にデータだとプロファイルがついてないので外部の人がどのようにデータを見るかは向こうに依存することになる（紙焼きを付けての受け渡しでないと色は指定できない）

4、破棄しても、後からプロファイルは付けられる

2 プロファイルが埋め込まれてないデータの場合

プロファイルを付けてこない人は、どんな人か

- 1 ICCプロファイルは、Approvalに決まっている場合（自社内の人）
- 2 ICCプロファイルのことをあまり理解して無い人（ICCプロファイルを付けるのが恐い人）
- 3 ICCプロファイルは付けない方が色は変わらないと思っている人（間違った考えの人） ←この人が以外に多い
- 4 付けても付けなくても色はあまり変わらないと思っている人（取り引き相手が固定している人） ←確かにオフセット印刷業界に流通するプロファイルは同じようなものではある。
- 5 バージョンの古いソフトで作成しているの、ICCプロファイルという概念がない場合

ICCプロファイルはグラフィカ業界に浸透していないので、相手の理解度や作業環境を考慮する必要がある。

		概念	デザイナーとの互換性			内部の作業性			
			モニターの色	網%	校正				
ダイアログ	どのプロファイルが使われるか	どっちのフィルターで見ているか？	こちらのモニターに出た色がデザイナーのモニターと	網%はデザイナーが指定したものと	デザイナーが出したプリントの色とアップルーパーバルで出した色が	モニターの色とアップルーパーバルで出した色が	仕事で使うのに適しているか	どのソフトに適しているか？	どういう時にこの選択肢を使うか
そのままにする（カラーマネジメントしない）	アップルーパーバル	こっち	違う	同じ	違う	同じ	△	とりあえずこれを選んで加工してもよい。	（とりあえず） デザイナーが指定した網%を重視する場合 モニターの色は、アップルーパーバル（初期設定のプロファイル）と同じだが、デザイナーが頭に描いている色とは違う 同じにしたかったらデザイナーのプリントを見ながら手で網%を変える
CMYKの作業をアップルーパーバルに指定	アップルーパーバル	こっち	違う	同じ	違う	同じ	△	Illustrator	（埋め込み） デザイナーが指定した網%を重視する場合 モニターの色は、アップルーパーバルと同じだが、デザイナーが頭に描いている色とは違う 同じにしたかったらデザイナーのプリントを見ながら手で網%を変える これを選択しての効果は、上のそのままにする（カラーマネジメントしない）と同じ、違いは保存する時にプロファイルが埋め込まれるか埋め込まれないかの差だけ
プロファイルの指定 デザイナーが使ったプロファイルを予測する	自分で予測したプロファイル	（おそらく）むこう	（おそらく）同じ	同じ	違う	違う	×	これを選んだら加工してはいけない	デザイナーと同じ色を見るだけの場合 デザイナーのデータは何も変えずにモニター上でデザイナーと同じ色を見たいときだけこれを選ぶ しかし、このままアップルーパーバルで出すとモニターの色と違うので加工には不向き。
次にファイルを作業用のCMYKに変換します	自分で予測したプロファイルに加え、さらにアップルーパーバル	こっち（両方）	（おそらく）ほとんど同じ	違う	（おそらく）ほとんど同じ	同じ	△	Photoshop	（おそらく） 自動でデザイナーの色にもっていく場合 デザイナーが、頭に描いている色を印刷で再現したい場合。但し、網%が変わる

注意1：（おそらく）とは、デザイナーがこのプロファイルを使っただろうという予想に基づくから、おそらくと表現しています。

注意2：プロファイルが無い場合、データ作成者に、どういう環境でやったか、聞くとよい。

注意3：“次にファイルを作業用のCMYKに変換します”は同時に2度変換かけることになり、ややこしいので、一度”プロファイルの指定”を選んで画像を開いてから、ポップアップメニューの”イメージ”の”プロファイル変換”を使うと変換が一度づつになり理解しやすい。